

DEBUT 首長

岡山県^{みまさか}美作市長 萩原 誠司氏

副市長2人で自治力強化 ベトナム人労働力に期待

美作市 2005年、岡山県北東部の6町村が合併して誕生。農林業が基幹産業。産業団地を整備、温泉資源もある。女子サッカー、岡山湯郷ベルの地元。人口3万人強。

——就任早々からコンプライアンス重視を強調し、副市長を2人体制にするなど人事の刷新を図った。狙いは。

ある人から「平成の大合併で多くの市が誕生したが、美作市は自治能力の点で最悪だ。だれかが刷新しなければならない。是非やってくれ」と言われた。昨年、観光関連施設などを運営する第3セクター2社が相次いで破綻したが、善管注意義務が果たされていないとも言える。市が業務を任せる企業には資金的体力など一定の基準が必要だが、経営に無理があった。消費税増税を想定せずに委託していた点もある。一から考え直した方がいい。

副市長を2人体制にしたが、これは年金をもらっている人に社会参加してもらう意味もある。市役所OBと警察OBにお願い

した。議会の協力で条例を整備してもらい、1人分の給与で2人に増員でき幹部職員を充実できた。また、公約の「オープン市長室」で有権者の意見を広く聞いている。

——少子高齢化、過疎化にどう対応するのか。

高齢者のがんばる力を信用したい。私は高齢者を「後期青年団」と呼んでいるが、この方たちに仕事をしてもらう。地方都市では医者に行くにも学校に通うにも車なしでは難しい。交通は大事な問題だ。高齢者に家用車を使った送り迎えをしてもらおうと思っている。料金は往復のガソリン代程度で補助金を使わずに運用したい。消費生活協同組合法の枠組みを使えば相互扶助でやれる。まちを活性化するというより、まずは延命策ということだが。

——産業振興ではどのような方法を考えているのか。

企業誘致を進めたい。土地はいくらでもあるのだが、労働力が足りない。国際化で解決したい。特にベトナム人労働者に期待している。美作市には現在



はぎわら・せいじ 1956年岡山県生まれ。80年東京大学教養学部卒。通産省(現経済産業省)入省。情報政策企画室長などを経て99年岡山市長。2期目の途中で辞職し2005年衆議院議員。14年3月美作市長に当選。

60人ほどのベトナム人がいて、中国人とほぼ同じ数だ。企業からすれば良質な労働力だ。ベトナム人からみれば美作市の気候が北部ベトナムに似ていて住みやすいようだ。将来的には1000人から3000人のベトナム人コミュニティができるくらいにしたい。企業は上海周辺に進出するより美作に来た方がいい。

今の企業誘致策では補助金が大きすぎて、固定資産税では永遠に回収できない。来年に向けて削減したい。業種にはこだわらないが地元と調和できる企業に来てほしい。若者の定住も進めたいが、それには教育環境の充実が大事だ。

——合併特例が適用された10年が終わり、来年度から交付税が減るが、財政の問題は。

導入できる国の補助金はまだまだあるが、外部資源の導入が不十分。これらを活用すれば財政的な影響はほとんどない。

(聞き手は

岡山支局長 鈴木 慎一)